



第5課 もっと親しくなろう (2)

— 身近な人とのエピソード —

扉

導入

第5課では、家族や友だち、恋人などの身近な人とのエピソードの共有を通して、相手とより親しくなることを目指します。相手の身近な人とのエピソードを知ると、相手との距離がぐっと縮まる気がするのには、きっと学習者の文化でも同じことでしょう。いっぽうで、エピソードの語りにはある程度まとまった長さが必要となり、どのように話を組み立てたらよいかわからないという学習者も少なくありません。また、なじみのない地名や登場人物が多くなると、聞き手は情報の処理がうまくできず、困ってしまうこともあるでしょう。そのような経験がないか、ある場合は具体的なエピソードを学習者に話しあわせてみましょう。

よくあるもやもや

- エピソードを話す側の悩みです。中上級の学習者なら、ある程度まとまった長さのエピソードを、とりあえず話すことはできるかもしれませんが、わかりやすい話し方ができているかどうかについては自信がないという学習者も多いものです。思い当たるふしがあるような場合は、話の途中で聞き手から内容に関する質問を何度もされたことはないか、尋ねてみてください。 → **POINT 1**
- エピソードを話す側の悩みです。おもしろい話をしたつもりなのに笑ってもらえなかったり、愚痴をこぼしただけのつもりなのに、深刻な悩みだと思われてしまったり、といった、自分の意図と聞き手の反応のずれを経験したことはないか、学習者に確認し、挙手させます。 → **POINT 1**
- エピソードを話す側の悩みです。複数の人が登場する話をするとき、どの人物の視点で話しているのかが定まらず「私は～」 「弟は～」 「友だちは～」 と主語がばらばらになっていることはないか、学習者に確認し、挙手させます。視点の統一については意識したことがない、これまでに学んだことがないという学習者も多いかもしれません。その場合もここで詳しい説明をすることはせず、STEP2で詳しく学ぶことを伝えてください。 → **POINT 2**



イラスト

STEP1 の〈もやもや会話〉の内容をイラストで表したものです。上級学習者にはこのイラストを見せながら、文字情報なしに会話のだいたいの内容や問題を把握させると良いでしょう。具体的な問題について考える作業は、次ページからのSTEP1で行うので、ここではあまり時間を取る必要はありません。

STEP1 考えよう

もやもや会話

【会話の内容と登場人物の心情】

ゴールデンウィーク後のある日、大学の食堂でマイクさんとさくらさんが話しています。マイクさんは、「親に言われて、連休中に急遽アメリカに帰国した」という出来事を話します。いったい何があったのかと思うような話ですが、実はこの話には、マイクさんの家族ならではのエピソードがあるのです。しかし、マイクさんは「～たよ」「～たよ」と出来事を列挙していくだけに終始しており、話のハイライト、オチが示されていません。また、登場人物が複数いますが、語りの視点はまちまちで、引用されたせりふには引用であることがわかる表現がともなっていません（「あー、マイク、姉ちゃん結婚するよ」）。その結果、さくらさんは話の展開についていけなくなっています。この会話がなぜ盛り上がらないのか、そのポイントを考えさせます。

質問

【解答例】

- ① わからない
- ② 親、おれ（私）、おれ（私）、みんな、（お）姉ちゃん

【指導のポイント】

- 「結局何が一番伝えたかったのかわからない」というのがポイントです。複数の意見（帰国したこと／北海道の旅行をキャンセルしなければならなかったこと／（お）姉ちゃんが結婚すること など）が出たら「どれが一番伝えたかったのか、この会話からはわからない」ということを確認してください。
- 視点が統一されていない（わかりにくさの原因の一つ）ことに注目させてください。



スツキリ会話

<もやもや会話>と比べて、会話が楽しく続いていることを確認します。「<もやもや会話>の下線部のところは、POINT のような表現を使うと、会話がスムーズに続くようになります。そのポイントについて学習しましょう。」というような声かけを行い、次のSTEP2につなげてください。各POINTについて、ここで話しあったり、解説したりする必要はありません。

STEP2 学ぼう

POINT 1 「オチ」に向けてエピソードを話す

【指導のポイント】

- 語りにはさまざまな種類のものがありますが、ここでは「最近のおどろいた出来事」(POINT1-1)、「予想していなかった自分やまわりの人の出来事」(POINT1-2)に絞って学習します。
- ここで取り上げる1)と2)の表現には3つのポイントがあります。1つ目は、聞き手に対して、「何やら語りが始まりそうだ」と予測させるような方法で話しはじめることです。1)では「【時間を表す名詞】+さー」、2)では「【人】(その出来事の主人公を指す名詞)+さー」がその役割を担っています。経験談などの冒頭によくみられる話し方で、この表現を使って話しはじめれば、聞き手は「オチ」らしきものが語られるまでは聞き手としてふるまうのが日本語の会話での約束事です。なお「さー」は下降イントネーションであることに注意してください。また、文末の「～んだ」にはそれがオチであること、語りが終わったことを示す役割があります。
- 2つ目のポイントは、何が話の「オチ」なのかを明確にするということです。自分がある行動をした結果、何かを発見した、あるいは思いがけないことが起こった、ということを示すには「～たら、～んだ」という表現パターンを用います(1)の例2)。ただし、ある動作の進行中に何かを発見した、あるいは思いがけないことが起こった、ということを示すには、「～てたら、～んだ」を使うことに注意させてください(1)の例1)。このとき、話しことばに慣れていない学習者には、「～てた」は「～ていた」の縮約形であるという説明を加えると良いでしょう。
- 3つ目のポイントは、語りを理解するのに必要な前置きとしての情報の伝え方です。2)に示した「～んだけど、～んだ」という表現パターンを用います。
- 結果には「うれしい」「おもしろい」などの気持ちを表す形容詞は使えず、動詞を使うこと(ただし1)の場合は話し手の意志を表す動詞は使えない)に注意させてください。



練習 1

【解答例】

- 1) おとといさー、はりきってサークルのミーティングに行ったら (さ)、時間を間違えてて、めちゃくちゃ怒られたんだ。
- 2) 私／おれ／ぼくさー、今月でバイトをやめるつもりだったんだけど、先輩が励ましてくれて、もう少し続けることにしたんだ。
- 3) 九州の地元の友だちさー、東京の大学に行ったんだけど、ホームシックで毎月帰っているんだ。

【指導のポイント】

- 「～たら～」「～んだけど～」が使い分けられているか、文末の「～んだ」が抜け落ちていないかに注意してください。

タスク

【指導のポイント】

- 「さー」のイントネーションが自然か（下降イントネーション）どうか。No.20の音声をモデルとして聞かせると良いでしょう。
- 「～たら」「～んだけど」のあとは聞き手Bがあいづちを打つのが自然な場所です。話し手Aは、「～たら」の「ら」、「～んだけど」の「ど」を軽く伸ばし、やや強く発話するとより自然なイントネーションになります。No.20の音声をモデルとしてご利用ください。
- 聞き手のあいづちについては6課で取り上げますが、ここでは「うん」という先を促すあいづちをあらかじめ示しています。
- 話し手Aの語りが終わったあと、聞き手Bは笑いや「すごいね」「おもしろいね」などの発話によって反応を示します。「おもしろいよね」のように終助詞「よね」を使用する学習者がいますが、相手は直接経験していて、自分は直接は経験していない出来事（持っている情報量に差がある）に対する感想を共有するときは、終助詞「ね」が適切です。

POINT 2 複数の人のせりふを「私」の立場で話す

【指導のポイント】

- 話し手と第三者のやりとりを話し手の視点で引用する際、「(第三者)は(私)に～って言った」と能動文にするのではなく、「(私)は(第三者)に～って言われた」と受身文にするのがポイントです。引用を表す「と」の代わりに、話しことばでは「って」がよく用いられることに注意させてください。



話の内容によっては、「言う」の代わりに「聞く」「怒る」「注意する」など別の動詞を使ってもかまいません。

- 相手のせりふに感謝している気持ち、うれしかった気持ちを表す場合は、「って言われたんだ」ではなく、2) の「って言って／賛成して／応援してくれたんだ」を使用します。

練習 2

【解答例】

- 1) 親に「留学したい」って言ったら、「大丈夫なの？」って言われたんだ。
- 2) 先生に「この授業って来学期もあるんですか？」って聞いたら、「どうでしょうね。」って言われたんだ。
- 3) 先輩に、「打ち上げの幹事、やります。」って言ったら、「困ったときはいつでも言ってね！」って言ってくれたんだ。

【指導のポイント】

- 誰かとのやりとりを、別の第三者に伝える練習です。
- 1) の親のせりふ、2) の先生のせりふは、このエピソードの話し手である「あなた」にとって困った、あるいはびっくりしたせりふのため、「って言われたんだ」にします。いっぽう、3) の先輩のせりふは、エピソードの話し手である「あなた」にとってうれしいせりふと言えるため、「って言ってくれたんだ」になることに注意させます。

タスク

【指導のポイント】

- POINT1 と同様、「さー」のイントネーションが下降音調になっているかどうか。No.20 の音声をモデルとしてご利用ください。
- 受身／「～てくれる」の使い分けが適切にできているかどうか
- 助詞「に」が適切に使えているかどうか



STEP3 お互いについて知ろう

話そう

第5課では、すでにしょっちゅう顔を合わせ、仲良くなっている相手と話す話題を集めています。直前の話題と関係のない、新しい話題として話すには、「最近」の経験・出来事が自然で望ましいでしょう。遠い過去の出来事を話す際には、なぜ今その話題を持ち出すのか（例えば直前の話題で思い出したなど）分かるような話し方が必要になります（第5課では最近の出来事に限定して学ぶため、あえて取り上げる必要はありませんが、もしそのような話をした学習者がいた場合は、3課のPOINT2「さっき見て思ったんだけど」「さっき言おうと思ったんだけど」の応用として、「さっき／今思い出したんだけど」という表現を紹介してもいいでしょう。なお、第7課のPOINT1では「そういえば」という前置きの表現を取り上げています。）

【場面例】

場面を意識した会話の始め方、話題転換を自然に行う表現などに注意させます。

[場面を意識した始め方の例]

A：おはよう！

B：あ、おはよう！

A：宿題やった？

B：うん、一応やった。

A：私も一応やったけど、全然自信ない。

B：私も私も

(沈黙)

B：昨日さー、

A：うん…

【三者会話の場合】

学習者A、B、Cがいた場合、話し手Aの語りが続いている間、聞き手B、Cはうなずくなどして反応を示します。語りが終わったら、聞き手B、Cはそれぞれ反応を示します。

<会話録音の流れ>

1課を参照してください。



発表しよう

【フィードバック上の注意点】

■全課共通

- カジュアルな会話にふさわしい表現を使えているか。
- 場面を意識した始め方ができているか。

■5課

- POINT1 で扱った語りの表現パターンが適切に使えているか。POINT1 では語りの最も核になる部分のみを扱っています。一発話では完結できないようなやや複雑な語りの指導には、コラムをご利用ください。
- オチが示せているか。
- 聞き手との距離が縮まるような、身近な人とのエピソードが語れているか。
- 話し手の視点から話せているか。

【学習者の会話例と、フィードバック例】

学習者の会話例

1A：おはよう。

2B：おはよう。

3A：ここに座っていい？

4B：いいよいいよ、どうぞー。

5：(Aが座る)

6B：この前、家族が日本に来るって言ってたっけ？

7A：うん、昨日来たんだよ。

8B：へー嬉しいよね。

9A：うん、嬉しいけどー、今ちょっと困ってる。

10B：えーなんで？

11A：家族に、あるお菓子を〇〇〇(国名)から持ってきてって頼んだんだけど、

結局いっぱい持ってきたから一人で食べられないよ。

12B：えー、めっちゃいい家族！それはいいんじゃない？

13A：いいけど、一人で食べられないのでー、なんかどうすればいいかなー、わかんない。

14B：それは簡単、私にちょうだい。



フィードバック例（教師のコメント例）

★カジュアルな会話にふさわしい表現か

- 13行目「ので」は固い表現なので、「から」に変えたほうがいいでしょう。
- その他は、全体的にカジュアルな会話にふさわしい表現が使えています。

★場面を意識した始め方ができているか

- 「先に教室に来ていた友達の隣に座って話す」という場面に合った始め方ができています。

★5課の学習項目について

Aさんへ

- 9行目「嬉しいけどー、今ちょっと困ってる」はいい始め方ですね。短いですが、先が聞きたくなる上手な話し方だと思います。
- 11行目、家族に話したことを、せりふを使って引用しているのがいいですね。
- 11行目「～んだけど」を使って前置きが上手に話せています。文の最後は、「んだ」を使ってオチを示すと、もっとわかりやすくなるでしょう。（例「いっぱい持ってきてくれたから一人で食べられないんだ」または2課のPOINT1の2)程度を表す具体例の「～ぐらい」を使って「一人で食べられないぐらいいっぱい持ってきてくれたんだ」）
- Aさんと家族のあたたかい関係が見えるいいエピソードですね。家族と離れて生活している学生ならみんな経験があるかもしれないので、いいトピックが選べていると思います。

Bさんへ

- 4課で学んだ「前に聞いた話の続きを聞く」表現もうまく取り入れていて、上手です。
- コメントが上手ですね。8行目「へー嬉しいよね」は、「へー嬉しいね」がいいでしょう。自分が直接経験していないことに共感を示すときは「よね」ではなく「ね」を使います。
- 12行目「いいんじゃない？」は「いいことなんじゃない？」にするともっと自然なコメントになるでしょう。
- 14行目「わたしにちょうだい」は、Aさんとの仲が良いことが感じられて、いいですね。

コラム⑤ ひとつの文では話せない！ 長くて複雑な経験の話

【指導のポイント】

- POINT1では語りの最も核になる部分のみを扱っています。コラムでは、一発話では完結できないようなやや複雑な語りをどのように構成したらよいかについて取り上げています。



- まずは POINT1 と 2 の表現を使って結果を簡潔に伝え、登場人物の具体的なせりふなど、細部についてはそのあとに話すと良いでしょう。巻末の「話しことば」(p.95)には、語りを続ける際に役立つ話しことばの接続詞の項目も設けています。必要に応じてご参照ください。